

InDesignにおける 文字組み・禁則処理について

InDesignには文字組に関する様々な機能があります。
大変便利な一方で、その特性を十分理解して使用しないと、
赤字のない箇所が変わるといった問題の原因にもなりえます。

■単数行コンポーザと段落コンポーザの違い

InDesignには、「コンポーザ」という機能があり、
文章内で改行するのに最も適した分割点で改行を行います。
主に使用するコンポーザとして、「Adobe日本語単数行コンポーザ」と「Adobe日本語段落コンポーザ」があります。

単数行コンポーザの場合、行単位で改行する分割点を検討します。
つまり、テキストの追加・削除などを行った行内でのみ調整を行うため、
その行より前の行には修正による影響がありません。

それに対し、段落コンポーザは、段落単位で分割点を決めるため、
文章が修正された場合、よりバランスのよい文字組にするため、
段落全体で分割点を再検討します。そのため、修正箇所よりも前の行で、
字詰めが変更される場合もあります（下図参照）。

「コンポーザ」の使用例

モリサワの書体が使え、電子ブックとしては高い表現能力を誇るリフロー系のフォーマットで、iPhone/iPad および Android で閲覧できます。

←トルツメ

←例えば、この文章の三行目にある「iPhone/」をトルツメ、という修正を行ったとします。

単数行コンポーザの場合

モリサワの書体が使え、電子ブックとしては高い表現能力を誇るリフロー系のフォーマットで、iPad および Android で閲覧できます。

←トルツメを行った行内で改行分割点を検討するため、その行より上の行には影響がありません。

段落コンポーザの場合

モリサワの書体が使え、電子ブックとしては高い表現能力を誇るリフロー系のフォーマットで、iPad および Android で閲覧できます。

←段落全体で改行分割点を検討するので、一行目の「ク」が次の行に送られてしまいました。

このように、段落コンポーザに設定されている場合、修正のない箇所が変わってしまう危険があります。そのため、明昌堂では通常単数行コンポーザを使用しています。

■禁則処理について

InDesignにはデフォルトの禁則処理として、主に「強い禁則」、「弱い禁則」、「禁則を使用しない」の3つがあります。

	禁則処理に該当する文字
「禁則を使用しない」	なし
「弱い禁則」	、 。 , . ! ? : ; ・ ♪ ♫ ♪ ♫ ‘ ’ “ ” () などの括弧類
「強い禁則」	「弱い禁則」に該当する文字 っ やなどの促音 ー(音引き) ¥ \$ % など

禁則を使用しない

くの思いで笹原を這い出すと向うに大きな池がある
吾輩は池の前に坐ってどうしたらよかろうと考え

↑禁則処理を行わないため、句読点が行頭にきてしまいます。

弱い禁則

ぬふりをしたが、やはり気になった。その後、キャ
ッシュカードを拾ったのはいいが、なんだか怖くなっ

↑無理のない、安定した字流れになります。

強い禁則

ぬふりをしたが、やはり気になった。その後、
キャッシュカードを拾ったのはいいが、なんだか怖く

↑促音は禁則対象のため、「キ」から強制的に改行され、前行の字間が間延びしています。

まず「禁則をしない」設定ですが、文字通り全く禁則処理を行わないため、「、」や「。」が行頭にきてしまう場合があります。一般的に、この設定が日本語の文字組で使用されることはありません。

また、「強い禁則」に設定すると、多くの文字が禁則の対象となるため、行ごとに文字数が変わり、字間が間延びしたり、反対に詰まりすぎたりする頻度が高くなります。

以上のことを踏まえ、明昌堂では安定感のある「弱い禁則」を使用することを基本としています。

■文字組みアキ量設定

InDesignには、文字間のアキを非常に細かく設定できる「文字組みアキ量設定」という機能があります。この設定を上手に行うことで、様々な文字組に対応することができます。

例えば、「括弧類は全て詰めたい」といった場合や、「和文と欧文の間を少し空けたい」といった場合にも、文字組みを設定するだけで対応できます。



↑「文字組みアキ量設定」の基本設定画面。

「文字組みアキ量設定」の使用例

パーレンのみツメ

鉄砲をかついで、白熊のような犬を二疋(ひき)つれて、だいぶ山奥の、木の葉のかさかさしたところを、こんなことを云いながら、あるいております。「ぜんたい、ここの山は怪しからんね。鳥も獣も一疋(びき)も居やがらん。なんでも構わないから、早くタンタアーンと、やって見たいもんだなあ。」「鹿の黄いろな横っ腹なんぞに、二三発お見舞

括弧類全てツメ

鉄砲をかついで、白熊のような犬を二疋(ひき)つれて、だいぶ山奥の、木の葉のかさかさしたところを、こんなことを云いながら、あるいております。「ぜんたい、ここの山は怪しからんね。鳥も獣も一疋(びき)も居やがらん。なんでも構わないから、早くタンタアーンと、やって見たいもんだなあ。」「鹿の黄いろな横っ腹なんぞに、二三発お見舞も

括弧類全てツメ+句読点ツメ

鉄砲をかついで、白熊のような犬を二疋(ひき)つれて、だいぶ山奥の、木の葉のかさかさしたところを、こんなことを云いながら、あるいております。「ぜんたい、ここの山は怪しからんね。鳥も獣も一疋(びき)も居やがらん。なんでも構わないから、早くタンタアーンと、やって見たいもんだなあ。」「鹿の黄いろな横っ腹なんぞに、二三発お見舞もうしたら、ず

左下の例以外にも、和文と英数字間のアキ量、括弧が連続した際のアキ量など、多彩な設定ができます。カスタマイズした文字組み設定は、別ファイルから読み込んで使用することも可能です。

この設定は、シリーズ商品などで文字組みの統一指定がある場合は特に重宝します。当社で作成した文字組み設定をデザイナー様にお渡しし、レイアウトの段階で使用していただく、といったことも可能です。

■全角スペースの行末吸収

InDesign CS3までのバージョンでは、全角スペースが行末にきた場合、次の行に送られてしまい、行頭に全角アキが発生してしまうという問題がありました。また、行末に全角スペースがそのまま残ってしまい、他の行と行末が揃わず、凸凹した文章になってしまうこともありました。そのため、**改行する指示がないのに行頭・行末にアキができて**いる、ということが多々起きていました。

これらを修正する場合、全角スペースを削除して手動で改行するか、全角スペースを半角スペース二つに変えるなどして対応していました。しかし、その方法だと作業効率が悪く、文字を修正して行がずれた場合に、他の行でまた同じ事が発生する可能性がありました。

以上の問題を解消する新機能として、CS4から、「全角スペースの行末吸収」が加わりました。この機能により、行末にきた全角スペースを次の行に送らず、行末に留めておけるようになりました。

CS3 以前の場合

のか! __いったい、何をどうしたらいいのか?
 考えれば考えるほど、答えが遠いような錯覚に陥る! __思い切って誰かに相談する?
 いや、それでは意味がない。せっかくここまで

↑「?」の後の全角スペースが行頭に送られてしまい、次の行頭が一全角下がりになってしまいました。また、三行目には、行末に全角スペースができてしまっています。

CS4 の「全角スペースの行末吸収」を設定した場合

のか! __いったい、何をどうしたらいいのか?
 考えれば考えるほど、答えが遠いような錯覚に陥る! __思い切って誰かに相談する?
 いや、それでは意味がない。せっかくここまで

↑全角スペースが行末にきた場合、次の行に送られるのを防いでくれます。同時に、行末に全角スペースができてしまうことも防止します。

上の例文のように、「?」や「!」を多様している文章には大変有効な機能です。CS4以降のバージョンを使用する場合は、フォーマットの段階で「全角スペースの行末吸収」を設定しておくことをおすすめします。